

(様式2)

## 平成13年度授業実践結果

宮川中学校

授業者等	授業日	平成14年1月20日	学年	2学年
	授業者	田口英司	教科	理科
	校種	中学校	単元	気象
	ねらい	低気圧、高気圧、前線などの動きと天気の変化を、リアルタイムなインターネットによるデータと実際の天気を比較することで、より身近なものとして認識し理解する。		
授業の流れ	<ul style="list-style-type: none"><li>・当日の朝刊に掲載された天気図(前日の午後6時のもの)を見て、昨日の天気を思い出しながら、なぜそのような天気になったのか理由を考える。 既習事項を大切にした発言<ul style="list-style-type: none"><li>*高気圧、低気圧の周囲での雲、風向、天気</li><li>*冬型の天気の特徴</li></ul></li><li>・低気圧、高気圧、前線の移動の規則性と当日の天気を観察しながら、大まかな天気図(低気圧、高気圧、前線の位置など)を予想する。 根拠をはっきりさせた予想<ul style="list-style-type: none"><li>*低気圧、高気圧の移動速度(約40km毎時)</li><li>*西~東(北より)</li><li>*前線の発達、変化</li></ul></li></ul>			
	<ul style="list-style-type: none"><li>・IMOC Weather Page (<a href="http://www.imoc.co.jp/">http://www.imoc.co.jp/</a>)を開き、速報天気図をダウンロードし各自が予想したものと比較する。 細部にこだわらず、位置関係を重視</li><li>・予想天気図を当日21時、翌日9時、翌日21時をダウンロードし低気圧や高気圧の動きを確認しあう。</li></ul>			
考察	低気圧や高気圧の動きや天気図の見方については、さまざまな資料で効率よく理解させることはできるが、実際の天気と結びついていないことが多い。インターネットで得られる気象情報は、ほぼリアルタイムで(1~2時間は遅れるが)、体感している気象条件と一致する。資料と実際の気象状況の結びつけることができるメリットは大きい。			